

高松市立檀紙小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、自ら考え実行し、たくましく生きる児童の育成

【本校の課題】

- 男女とも、全学年で握力の値が低く、県・全国平均を下回っている。
- 運動能力の2極化が進んでおり、学年が上がるにつれてこの傾向が強くなっている。

【現状】

休み時間等には元気よく運動場で遊んでいる児童が多く見られるが、昼休みは給食の片づけや委員会の活動等があり、運動場で十分な時間遊ぶことができていない児童もいる。また、家庭においても外で遊ぶ場所や時間が十分に確保できない児童が多く、運動経験の乏しさにつながっている。体育の授業においては、若年教員の増加とともに、効果的な指導技術の低下が課題として挙げられる。

【取組み】

持久力を高める

11月から1月の週2回業間に「RUN・ランクラブ」という、持久力を高める活動を4・5・6年生対象に行っている。(主に1kmのタイム測定)教員も共に走ることで、児童の意欲向上にもつながっている。

体育実技研の実施

長期休業中、体育部を中心に、体育実技研修会を行っている。研究教科が体育以外の教員を対象に単元の流れや動きなど、実技を交えて研修している。



多様な運動の機会の設定

9月から11月に各学年の発達段階に合わせた種目(ブリッジ・背支持倒立・一輪車等)を設定し、体力づくりとして練習に取り組んでいる。練習した技は、次年度の運動会の表現の中で全校生や保護者に発表する。



握力の強化の日常化

本校の長年の課題である「握力」の向上を図るために、児童玄関横に古い握力計を置き、日常的に握力を計測できるようにしている。

児童は休み時間、体育の授業の帰りなどに握力コーナーに立ち寄り、楽しみながら握力を計測している。



【目標】

- 運動が好きと答える女子児童の割合を、令和2年度までに80%にする。
- 現職教育で体育実技研修会を毎年行い、指導力の向上を図る。
- 運動場で元気に遊ぶ時間を保障することで、集団の中で自分を発揮するたくましい児童を育成する。